

第249回新潟循環器談話会

日時 平成18年12月9日(土)
午後3時～6時
場所 新潟大学医学部 第五講義室

I. 一般演題

1 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)が効果的であった急性高血圧性肺水腫の1例

山本 格・伊藤 正洋・肥田 誠治
齊藤 直樹・大矢 洋・佐藤 暢夫
大橋さとみ・山本 智・木下 秀則
風間順一郎・本多 忠幸・遠藤 裕
八木原伸江*・布施 公一*・小玉 誠*
相澤 義房*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
救急部集中治療部
同 第一内科*

症例は66歳の男性である。60歳頃より収縮期160mmHg程度の高血圧を指摘されていたが、放置していた。平成18年10月2日頃より風邪気味で食欲が無かった。同年10月4日、16時、突然の強い呼吸困難感が出現し、当院救急外来を受診した。受診時の血圧は226/82mmHg、脈拍は140/分、整であった。意識レベルはJCSI-1。努力性呼吸であり、発汗著明、四肢に冷感・チアノーゼを認めた。また、全肺野で湿性ラ音を聴取した。動脈血ガスは酸素10L投与下でPH 7.015、PO₂ 89.8、PCO₂ 92.7、HCO₃ 22.5、BE 13.0であった。心電図は洞頻脈、完全左脚ブロックであり、心エコーでは左室全周性の壁運動の低下、左室肥大を認めた。血圧上昇、後負荷増加による急性肺水腫と診断し、酸素投与、利尿剤、血管拡張剤、カルシウム拮抗薬を開始した。血圧は180mmHg程度まで低下したが、呼吸困難感の改善は無く、動脈血ガスもPO₂ 52.5、PCO₂ 41.0まで低下したため、非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)、BiPAPを開始した。開始後、低酸素血症は改善し、血圧も160mmHg程度となり、状態は落ち着いた。

NPPVの適応となる急性呼吸不全において、急性心原性肺水腫は強いエビデンスが確立されている。本症例でもNPPVの使用が症状、血行動態、酸素化能を改善させ、気管内挿管への移行を防ぐことに効果的であった。

2 bucolome 併用 warfarin 投与法Ⅲ

凝固能に影響すると思われる薬物 その一：序説, clofibrate

真島 正

済生会新潟病院内科

序説

I fosfestrolによる凝固能亢進 warfarin 投与量 estrogen 誘導体の fosfestrol 併用により、トロンボテスト値が異常に上昇したが、warfarin 投与量平均値を以前の5.98mg/wを9.33mgに増量して、TT: 14.7%を維持できた。

II clofibrateは凝固能上昇を抑制していたらしい。

clofibrate, probucol 併用の5年後、clofibrateを中止して2年5カ月後、W投与量を12.5mg/weekに倍増した時期に axillary artery の塞栓を発症した。

clofibrateによる warfarin 投与量 mg/week の変動

clofibrate 投与開始後の W 投与量変動率

I 50回のうち反応が明らかだった、38回では2年以後投与量は74.2%に低下し、不応の12回でも低下を開始し、5年後には80%に減量した。

II 反応と不応の条件差を確かめるため、同じ症例で2回観察した6歳で検討した。

clofibrate 開始前の W 投与量が7 mg/w だった3例中2例で、前投与量が小さかった場合、clofibrateによる W 投与量低下を認めない。

III W 投与量低下はゆっくりしているので、以前から clofibrate を投与していた例でも、途中から W 投与を開始一年以内の6例中5例で低下を認め、一年以上経過して、W 投与を開始した6例中5例に長期にわたる W 投与量低下を認